

磐田を 知りたい！ 調べたい！

磐田の石造物

石造物とは何を指すのでしょうか？石から作った加工品、つまり石製加工品のことです。具体的には、墓石、道標（みちしるべ）、石灯籠、石碑、石仏、歌碑、記念碑、忠魂碑（ちゅうこんひ）、供養塔、石蔵など、半永久的に残したいものが石から造られています。

1. 市内に残る石造物

市内には、墓石、道標、石灯籠、石仏、歌碑、忠魂碑、石蔵など各地区を特徴付ける石造物が存在します。また、このような石造物を各地区の郷土研究会が調査し、作成した冊子があります。

『日本石造物事典』

2. 豊岡地区

この地区には、永安寺をはじめ、ここを本寺とした末寺に古い石塔（供養塔）が存在しています。県内で最古とされる石塔が永安寺にあり、鎌倉時代後期（13世紀後半）とされています。鎌倉幕府の御家人「野部介（のべのすけ）」に係わる供養塔の可能性がります。

「遠江中・東部地域の中世石塔の出現と展開」「研究紀要」第29号
『中世石塔の考古学』、『豊岡村史 通史編』

3. 豊田地区

時宗（じしゅう）の行興寺には、「熊野御前（ゆやごぜん）」にまつわる供養塔が存在します。14世紀後半のもので時宗と密接な関係にある、「熊野信仰（くまのしんこう）」との関わりが考えられます。

『ふるさとの石碑』、『豊田町石仏散歩』、『豊田町誌 通史編』、『豊田町誌 資料編』

4. 磐田地区

時宗の西光寺に県内唯一の宝塔が存在します。そのほか、見付地内には14世紀代の石塔が多くあります。

『磐田の石物散歩』、『磐南の暮らしを支えた文化財』、『中世石塔の考古学』

5. 竜洋地区

江戸時代から明治時代半ばにかけて、掛塚湊で廻船業を行っていた家では、石蔵が現在でも残っています。江戸からの帰り、空の荷では船の安定が悪いと、伊豆石（いずいし）の重量で安定させたとも言われています。凝灰岩（ぎょうかいがん）製であるため伊豆南～西海岸辺りで積荷したと思われます。

『竜洋町史』通史編、『竜洋町の史跡・文化財』『竜洋町の文化財めぐり』
『竜洋町の石仏』、『郷土読本ふるさと竜洋 改訂版』 p 234～

6. 福田地区

地元、郷土史家や旧教育委員会で精力的に調査が実施され、郷土の偉人の墓石、慰霊碑、石仏、灯籠など石造物の調査や案内板が設置されています。

『福田の郷土誌』、『福田町史 民俗 資料編』 p 218, 292, 293
『福田町の史跡』 p 41～、『史跡をたずねて』

7. その他

秋葉灯籠

覆屋（おおいや）に入った石灯籠を「龍燈（りゅうとう）」といいます。

秋葉道（あきはみち）まで行く道標ともされ、遠州地方では秋葉道が秋葉神社を中心に四方八方へ伸び出た形に作られています。

『静岡県史 資料編 25 民俗 三』 p 831, 832

忠魂碑

日清・日露戦争で亡くなった戦没者のための忠魂碑については、『静岡県内忠魂碑等全集』があります。

このほか、詳細にお知りになりたいときには、レファレンス（相談）カウンターまでお尋ねください。